

■自由論考

ハワイピジン英語内の日本語起源語彙 —カウアイ島リフエプランテーションにおける日本人移民労働者の生活環境— 夫 明美

0. 序論

本稿の目的は、ハワイ英語（ハワイピジン英語ともいわれる）に見られる日本語を起源とする語彙を紹介し、その歴史的背景をハワイ内におけるプランテーション事業の拡大という観点から説明することである。特に以下の2点にフォーカスする。

1. 学校教育現場で教えられる「標準英語」とは非常に異なった言語体系をもつハワイ英語に接する機会を提供すること
2. 「観光天国」としての地位を（巧みに仕組まれた宣伝やメディア活動により）確立したハワイには、穏やかな貿易風でヤシの葉がそよぐイメージとは異なった歴史的事情があることを紹介すること

1. プランテーション事業拡大の歴史的背景とカウアイ島 Lihue Plantation

本セクションではハワイ諸島におけるプランテーション事業拡大の歴史的背景と、その中でもカウアイ島内で大規模な事業を展開していた Lihue Plantation について述べる。

1.1 プランテーション事業拡大の歴史的背景

ハワイ諸島の旧制度では、王が中心となり、全ての土地を統治していた。その王の下で、アリエと呼ばれる族長たちが土地を管理し、その下でマカアイナナと呼ばれる平民たちが労働を行っていた。アフアアという山から海にかけての土地区分けで管理されており、物々交換の経済制度が成立していた。アフアア間において大地の恵み、海の恵みに偏りが出ないように工夫されていたようである。この様子を端的に表現するハワイ語の格言を紹介しよう。Ko koā uka, ko koā kai (Those of the upland, those of the shore.) 土地でタロイモを栽培するものと、海で漁や養殖をするものがそれぞれの作物を交換する様子を記述している。

このような状況が初めての白人であるクッカー団やそれに続く入植者には「悲惨な制度」に見え、実際にカウアイ島内におけるプランテーション事業の創始者にあたるウィリアム・フーパーは、この制度から平民たちを「解放する」ことが文明や経済の発達につながると確信していた。

ハワイ諸島においてプランテーションが急速に発達したのには、以下の3つの歴史的出来事と関連が深い。

1. 1848年 グレートマヘレ法
2. 1848年 カリフォルニアにおけるゴールドラッシュ
3. 1875年 合衆国とハワイの互惠条約

白人入植者により近代資本主義や結核・麻疹などの病気が持ち込まれ、1820年代には白檀貿易がアメリカ人により独占されるようになった。経済的にも白檀貿易が占める割合が高まり、カメハメハ三世の統治時代、グレートマヘレ法により、それまで王や族長が管理・統括していた土地を外国人が購入・賃貸することを認めるものとなった。実際のハワイ王朝も財政難に苦しんでいた時期でもあり、これを機に、本土に資本をもつ土地投機家や砂糖生産業者が熱心に土地を獲得し始めた。池澤（2000, p. 216）の言葉を借りるなら、「土地が生活の基盤から投資の対象」へと変わった歴史的な出来事といえる。また、同年のゴールドラッシュによって、同州内での人口が増加した。これにより、プランターたちは生産する砂糖の安定した輸出先を得たことになる。

また、アメリカ本土においては1861年から1865年の南北戦争を経て、経済の疲弊が生じていた。特に戦争の結果、本土における砂糖価格が上昇したことが関連深い。その時期と重なるように1875年に互惠条約が締結され、ハワイから本土への輸出品に対する関税が撤廃された。プランターたちは大きな利益を得ることとなり、投機目的の砂糖生産量は上昇し続けるのである。

実際、1870年代から1920年代にかけてプランテーション内労働者数、プランテーション耕作面積、プランテーション数がいずれも激増した。

1.2 カウアイ島 Lihue Plantation

本セクションではリフエプランテーションの歴史を紹介する。カウアイ島はハワイ諸島のうちで北側から2つ目に位

置し、通称「ガーデンアイランド」といわれている。リフエプランテーションは、カウアイ島内のプランテーションでも最も古いものの1つで、1850年に設立された。1880年前後には同島内のHanamaulu MillとHanamaulu Punaを、1934年にはMakee plantationを吸収合併し、電気、水道、鉄道、輸送会社を含む大規模なプランテーション事業を展開した。また、プランテーション内には労働者用の住居、学校、協会、病院なども併設されていた。

労働者は後述するように薄給で日の出から日の入りまで過酷な農耕作業に励むのであるが、1か月分の給料を手にしても、日常の消耗品やささやかな娯楽のための消費もすべてプランテーション内で行われる。つまり、プランテーション内のすべての経済活動は管理者が握っているといえよう。

2. プランテーションの労働環境

プランテーションが拡大を遂げる中、事業主にとっては安定した労働力の確保が最重要課題となり、それを移民労働者に求めるようになった。本セクションでは1850年代から1920年代のプランテーション内の民族別労働人口の推移、1920年代のLihue Plantationにおける給与体系、特に日本人・日本人系労働者の労働環境について説明する。

2.1 ハワイ州内プランテーションの労働人口類型

はじめに元年者（ガンネンモノ）と呼ばれる初代の移民労働者が1868年（明治元年）にハワイに渡った。続くカラカウア大王の統治時代、1885年には「官約移民」としての多くの労働者が移民としてハワイへ向かった。以来、日本人労働者数は増加の一途を遂げるが、その時期と前後するプランテーション内の労働人口類型の推移を以下に表示する。

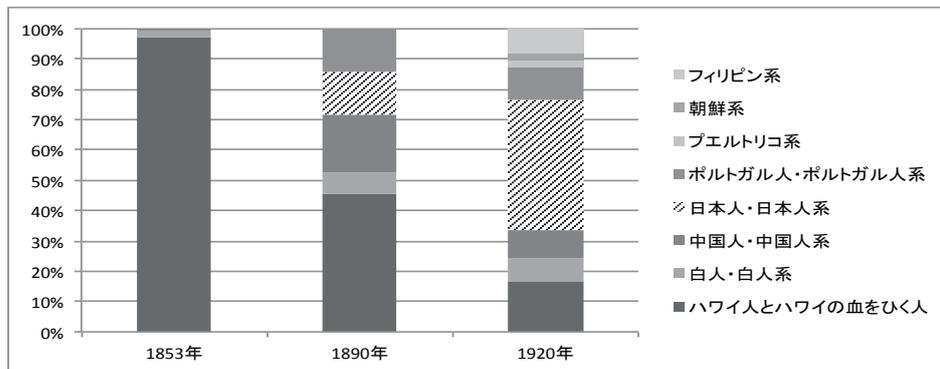


表 1. ハワイ州内プランテーションの労働人口類型の推移

特に1890年から1920年の30年間で移民の民族背景が多様化する背景を説明する。1898年に合衆国に併合されていたハワイは、「連邦法」の適応をうけて1900年に中国人移民が禁止された。それと同時に、増加する日本人系移民の力が台頭することを恐れたプランターたちが他の民族に「移民の注文」を始めた。「分断して支配せよ」という方針を徹底するためである（タカキ 1985, p. 37）。アジアからの移民労働者を朝鮮に求め始めるが、1905年に朝鮮政府が移民を停止したことにより、台頭する日本人・日系移民をどう抑えるかが課題となった。そこで、1906年にフィリピン人の移民が始まる。翌年1907年には「紳士協定」によって日本人のアメリカへの移民が制限される。続く1909年に発生した、オアフ島アイエアプランテーションにおける日本人労働者の大ストライキにより、日本人労働者へ依存することの危険性をプランテーション側が知る事となった。そこで、1898年の米西戦争で得たフィリピンを、安定した移民の供給源として位置づけた。これ以後、フィリピン人・フィリピン系労働者の数は上昇をたどる。また、後述するリフエプランテーションにおいても、日本人系労働者と、フィリピン系労働者は大多数を占めていた。

2.2 労働者の民族構成と給与体系

1924年、リフエプランテーションにおいてサトウキビ耕作作業やプランテーションの管理に従事する労働者を民族グループごとにまとめたものが表2である。一見して、民族別の労働従事者数には大きな開きがあること、また、その間には支払額においても格差があることが分かる。

実際の農耕作業は極めて重労働であり、その内容は畑からサトウキビを切り取る cutting cane（カチケンともいわれる）作業や、サトウキビから枯葉を取り去るホレホレ作業、切り取ったサトウキビを運搬車に積み込む loading cane といわれる作業が大半である。

農耕作業の過酷さを物語る様子を、「ホレホレ節」や実際に労働に従事していた者の談話から知ることができる。

カネハ カチケン
ワシャ ホレホレ ヨー
アセ ト ナミダ ノ
トモカセギ

夫は カチケン (キビ刈り)
わしゃ ホレホレよ
汗と涙の
共稼ぎ

(タカキ 1985、p. 89)

「わしの最初の仕事は砂糖キビの積み込み作業、背に負って運搬する作業だったよ。五十ポンドから七十五ポンドの重さのある束を束ねてね。その砂糖キビの束を背負って梯子をのぼり、砂糖キビ運搬車に積み込むんだ・・・同じ年頃の少年や年上の少年が大勢いてね。プランテーションのために働いていたよ。当時はプランテーションが労働力を必要としていたからね。」

(タカキ 1985、p. 121)

別資料の Details of Sunday Contract から支払額の詳細を付記すると、カチケン作業に対しては、フィリピン人男性に \$ 1.00、日本人男性に \$ 1.00 の支払いがあった。Loading cane 作業に対しては、フィリピン人男性に \$ 1.53 日本人男性に \$ 1.96、日本人女性に \$ 0.68 の支払いがあった。この作業にあたる民族グループがフィリピン人と日本人だけであること、支払賃金に大きな男女差があることは注目に値する。Minors は、おそらく談話を引用したような未成年男性労働者をさすものと思われる。

| | | Number of people | Day Work | Sunday Contracts |
|----------------|--------------|------------------|----------|------------------|
| Men | American | 4 | 2.40 | |
| | Hawaiian | 13 | 1.72 | 2.00 |
| | Porto Ricans | 30 | 1.26 | 1.48 |
| | Portuguese | 98 | 1.72 | 2.49 |
| | Spanish | 1 | | 2.53 |
| | Filipinos | 832 | 1.16 | 1.23 |
| | Japanese | 238 | 1.39 | 2.05 |
| | Chinese | 5 | 1.27 | |
| | Koreans | 2 | 1.06 | |
| | All Others | 15 | 1.59 | 1.37 |
| Women & Minors | | Number of people | Day Work | Sunday Contracts |
| | Japanese | 15 | 0.8 | 0.79 |
| | Filipinos | 6 | 0.66 | 1.03 |
| | Portuguese | 17 | 0.87 | 1.1 |
| | Spanish | | | |
| | All Others | 5 | 0.95 | |

表 2. 1924 年 1 月 リフエプランテーション内の農耕労働者数内訳と平均給与額

また、実際のサトウキビ畑における農耕作業とは別に、プランテーション全体を管理運営する業務や、重機器などを操作する skilled labor (熟練業) とよばれるカテゴリーも存在する。それらを表 3 に示す。ここでも、特定のグループに特定の労働が偏重していること、賃金には大きな格差が存在していることが明らかである。また、労働従事者数はフィリピン人が圧倒的に突出しているが、より早い時期に日本人移民労働者が多く従事していたことから、年月を経て熟練業に従事する者が、白人・ハワイ人以外のグループでは日本人だけであることも注目に値する。別資料の Bonus payment 1923 December によると、machinist, carpenter, painter, surveyor, clerk などに日本人、日本人系労働者がついてきたようである。ちなみに、当資料は全部で A4 サイズ 4 枚のものであるが、上級管理職クラスが名を連ねるページは、ほとんど全てアメリカ人で占められており、リスト中でクラスが最も高い職種と思われる日本人の名前が出てくるのは 2 ページ目の最後であった。

女性労働者では日本人が唯一のグループであることも目を引く。1885 年以降、女性労働者も作業に取り組むようになって

たようである。タカキ（1985）によると、1894年には1618人の女性労働者が従事して、労働人口の7%にあたる。1920年にはオアフ島における女性労働者は、労働人口の14%を占めるようになり、そのうちの大多数、約80%は日本人女性であったようである。彼女らは前述した極めて骨の折れる、畑を耕す作業やサトウキビから枯葉をはぎ取る「ホレホレ」作業、また loading labor にも従事したようである。同様の現象、日本人女性の農耕労働への進出が、カウアイ島内のリフエプランテーションでも発生していたものと思われる。

| | | Field cultivation | Skilled daywork |
|----------------|--------------|-------------------|-----------------|
| Men | American | | 7.03 |
| | Hawaiian | | 2.88 |
| | Porto Ricans | | |
| | Portuguese | | 3.24 |
| | Spanish | | |
| | Filipinos | 0.91 | |
| | Japanese | 0.95 | 3.14 |
| | Chinese | | |
| | Koreans | | |
| | All Others | | |
| Women & Minors | | Field cultivation | Skilled daywork |
| | Japanese | 0.81 | |
| | Filipinos | | |
| | Portuguese | | |
| | Spanish | | |
| | All Others | | |

表 3. 1924年1月におけるリフエプランテーション内における平均日給

2.3 労働者への補償と福利

今日の労働では一般的とされる労働者への補償や福利厚生について、事例を交えて紹介する。プランテーションの管理側としては、労働者が自らの権利を主張・拡張しないように「分断して支配」する原則を、少なくとも労働者によるストライキが発生するまでは徹底していたようである。

まず、事故に対する補償を紹介する。前述したように、サトウキビ畑での作業は大変過酷なもので、事故も多発したようである。男性労働者 Nakamoto 氏の payment roll を見ると、労働中の事故により約一月半分の給与が年棒から減少していることがわかる。支払額から考慮すると、おそらく上記した表3に見られる農耕従事者ではないかと思われる。もとより薄給で過酷な労働に従事していた者にとっては大きな損失であることが容易に想像できる。

| MONTH | YEAR | NO. OF DAYS | AMOUNT | YEAR | NO. OF DAYS | AMOUNT | YEAR | NO. OF DAYS | AMOUNT |
|-----------|------|-------------|--------|------|-------------|--------|-------|-------------|--------|
| January | 1937 | 26 | 42.50 | 25 | 42.60 | 25 | 42.60 | | |
| February | | 23 | 39.20 | 26 | 42.90 | 26 | 42.90 | | |
| March | | 23 | 39.60 | 26 | 42.90 | 27 | 44.10 | | |
| April | | 24 | 42.30 | 26 | 42.90 | 27 | 44.10 | | |
| May | | 26 | 45.70 | 28 | 47.70 | 28 | 47.70 | | |
| June | | 11 | 17.80 | 28 | 47.70 | 28 | 47.70 | | |
| July | | 26 | 42.60 | 26 | 42.60 | 26 | 42.60 | | |
| August | | 25 | 42.60 | 21 | 37.50 | 30 | 49.50 | | |
| September | | 27 | 46.00 | 27 | 46.00 | 30 | 52.50 | | |
| October | | 25 | 42.60 | 27 | 46.00 | 28 | 47.70 | | |
| November | | 23 | 39.20 | 27 | 46.00 | 30 | 52.50 | | |
| December | | 25 | 42.60 | 23 | 39.20 | 31 | 53.20 | | |
| TOTAL | | | 446.33 | | | | | | |

写真 1. Nakamoto Sakichi の payment roll

大きな感情がゆさぶられるのではないだろうか。

手紙の英訳文

Through your generosity I am now safely settled with my family and relatives in Japan spending my old age in my homeland.

I arrived in Yokohama on April 15, 1937 and was met by my nephews at the port. My family and all my relatives feel very grateful for all the kindness bestowed upon me by the plantation.

I shall always feel thankful and happy for being sent back to my family and home in Japan.

Sincerely yours,

Signed Kichihei Oya

また、長年にわたる過酷な労働を「定年」という形で勤め上げて、故郷へ戻った労働者も存在するようである。リフエプランテーションの労働者であった大矢吉平氏が故郷の横浜に帰郷してのち、プランテーション宛てに綴った札状を紹介する。残念ながら、大矢氏個人の payroll card などから知ることができなかったため、彼が従事していた業種や実際の労働年数、家族構成などを付記することができない。しかし、多くの移民労働者がそうであったように、艱難辛苦のプランテーション労働と異国での生活を終えて、無事に故郷で親族や友人にまみえた時の彼の胸の内を想像すると、我々の胸のなかでも大

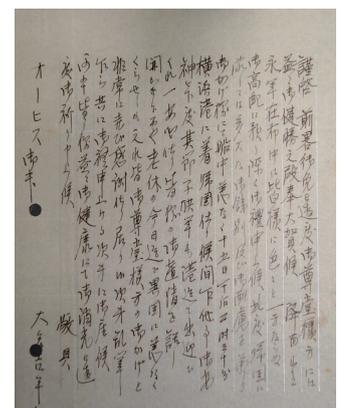


写真 2. 大矢吉平氏からの手紙

3. 日本語を起源にするハワイピジン英語語彙

このセクションでは、ハワイピジン英語に見られる日本語を起源にする語彙を紹介する。当該する資料を選定した理由は、ローカル文化やユーモアを交えて語彙を紹介していること (Sasaki, Simonson & Sakata, 1986) と、実際のハワイピジン英語使用者が実例を挙げたものを編纂しているため (Tonouchi, 2005) である。

Sasaki, Simonson and Sakata (1986) より、食べ物に見られる語彙から以下に挙げる。

ARARE: Rice cracker. Also called KAKIMOCCHI.

BENTO: Box lunch. Common ingredients are: rice, takuwan, spam, daikon, shoyu chicken, teriyaki meat, ume, Vienna sausage, nori, egg, grated ginger, and for some unknown reason, green strips of plastic.

CONE SUSHI: Style of sushi wrapped in cone of abrage. In cone sushi, the rice contains bits of minced vegetables. Also called inari sushi.

DAIKON: Common ingredient in Japanese cooking. It's the turnip family but tastes more like radish.

DONBURI: Rice dish with various toppings. Literally means "big bowl".

GOBO: Burdock root, often sliced into slivers and made into kimpira, or added to vegetable dishes such as nishime. Has a slightly tangy taste.

MOCHI: Rice cake. Made from rice and glutinous rice flour called MOCHIKO.

MUSUBI: Cooked rice shaped into triangles or balls. Sometimes get ume or other surprises inside.

NIGIRI: Style of sushi with seafood on top.

OZONI: Breakfast soup made from mocha and vegetables. Traditionally eaten on New Year's Day.

TSUKEMONO: Pickled vegetables. Also called KOKO.

次に、Tonouchi (2005) より、実際の話者からの実例を含む語彙を紹介する。なお、() 内のアメリカ英語標準表記は筆者が付記した。

Bakatare: Stupid. *Da bakatare boy wen play wit matches and burn down his house.* (The stupid boy played with the matches and burned down his house.)

Boroboro: Mess up. *Brah, your clothes so boroboro make A fo' go out wit you.* (Brother, your clothes are so messy; it is embarrassing to go out with you.)

Hanabata days: Small kid time. *Remember hanabata days wen we used to Hadashi?* (Do you remember our childhood days when we used to play barefoot?)

Ichiban: Numbah one (Number one): *Wen comes to cooking, Ichiban Saimin is Ichiban numbah one.* (When it comes to cooking, Ichiban Saimin is number one.)

Obake: Ghost. *She told me da obake story about da diaphanous figure floating in da air.* (She told me the ghost story about the diaphanous figure floating in the air.)

Oshare: Glamapoose (Fashionable). *She so oshare; she like shop Anne Namba at Neiman Marcus all time.* (She is so fashionable. She likes shopping at Anne Namba at Neiman Marcus all time.)

Anne Namba: 有名デザイナーブランド、Neiman Marcus: アメリカ高級デパート

Sukoshi: Little bit. *Karen is sukoshi kine forgetful, az why she cannot find her keys.* (Karen is a bit forgetful, that's why she cannot find her keys.)

Ume: Das da salty red ball dat stay in da musubi (The salty read ball in musubi). *Some people eat 'em, but I tink da ume only good fo' one ting, decoration!* (Some people eat them, but I think the ume is only good for one thing, decoration!)

以上、限られた事例のみを報告したが、ことばがコミュニティに根ざしていきいきと使用されている様子について知る機会となることができれば、本稿の目的を果たしたといえよう。また、事例中の英文自体もハワイピジン英語の文法的・音韻的特徴を大いに含んでいるので、アメリカ標準英語の表記も付記したが、これらの側面についても「言語の多様性」という視点から別稿で紹介したいと思う。

4. むすび

本稿では日本語を起源にもつハワイピジン英語の語彙を端的に紹介した。アメリカ標準英語内にも「ショーユ」や「トーフ」などの借用語は見られるが、移民たちが自分たちの生活と共に持ち込んだ語彙にふれることで、言語の多様性・流動性、その歴史的な背景について考える契機になれば幸いである。また、日本とハワイは現在でも経済を中心に密接な結びつきを有しているが、そこに至るまで140年余りの間にハワイに渡り、プランテーション労働から始まる生活・世代を超えた人生そのものを根付かせていった移民たちが築いた礎を抜きにして語ることはできない。現在広く流布する「ハワイ＝楽園」のイメージを超え、学生たちが自分たちの先代にあたる人々が異国の地で苦勞を続けたことや先住民の権利等についても想像を働かせることで、歴史や社会一般についても見地を広げる機会になればと思う。

引用文献

- 池澤夏樹 (2000) 『ハワイ紀行』新潮文庫
- 中嶋弓子 (1993) 『ハワイ・さまよえる楽園』東京書籍
- ロナルド タカキ (1985) 『パウハナ』富田虎男・白井洋子訳 刀水書房
- ハウナニ トラスク (2002) 『大地にしがみつけ』松原好次訳 春風社
- Hawaiian Sugar Planters' Association Plantation Archives, University of Hawaii at Manoa Library Hawaiian Collection. List of Hawaii Sugar Plantation and Dates of Operation.
- Hawaiian Sugar Planters' Association Plantation Archives, University of Hawaii at Manoa Library Hawaiian Collection. LPC9/10 Comparative Labor Statistics 1923. Jan.
- Hawaiian Sugar Planters' Association Plantation Archives, University of Hawaii at Manoa Library Hawaiian Collection. LPC24/4 Accident Report Cards.
- Hawaiian Sugar Planters' Association Plantation Archives, University of Hawaii at Manoa Library Hawaiian Collection. LPC24/4 Paylist of Japanese and Chinese, Lihue Plantation.
- Pukui, M. (1983). *ʻŌlelo No`eau*. Bishop Museum Press.
- Sasaki, P., Simonson, D., and Sakata, K. (1986). *Pupus to da max*. Bess Press.
- Tonouchi, L. (2005). *Da kine dictionary*. Bess Press.